

## 中越地方の国有林

中越森林管理署が所在する新潟県中越地方は、上・中・下越・佐渡に区分される新潟県の中央に位置し、北は新潟市、南は群馬県境、東は福島県境、西は長野県境、上越市及び日本海に接しています。

区域面積はおよそ50万haで、南北に信濃川が流れ、信濃川およびその支流河川によって形成された広大な平野にコシヒカリをはじめとした稲作が行われ、水田と山並みが美しい景観を形成しています。

就業者数や生産額では第3次産業が6割以上を占めますが、全国平均に比べ稲作を中心とした農業や製造業の割合が高くなっています。

中越森林管理署が管理している国有林は、中越地方の東部および南部の、福島、群馬、長野県境付近の急峻な山岳地帯を中心に分布しています。(図1)

面積はおよそ10万haで、奥地山岳地帯が大部分を占めることから、ブナをはじめとする原生的な天然林や稜線の低木地、岩石地が多く、スギを中心とした人工林は区域の6%弱に過ぎません(全国平均(41%)を大きく下回ります)。

一方、これらの国有林は、関越自動車道や上越新幹線などにより関東地方からのアクセスが良いことと、非常に多量の積雪があることから、スキー・スノボなどのウインターレジャーのエリアとして利用されています。

また、群馬県境の谷川連峰や巻機山、長野県境の苗場山などの日本百名山もあり、夏場の登山を楽しむ場としても人気の高いエリアです。



図1 新潟県内の国有林(濃い緑)の分布

このような自然的・社会的条件の中、中越森林管理署は、林業の成長産業化に向けた取組や、治山事業など国民の生命財産を守る取組、豊かな森林生態系の保全やそこに生息・生育する希少野生動植物の保護といった生物多様性保全の取組など、国有林を活用した地域振興を目指し、国有林の管理・経営を行っています。

## 中越地方の山々

中越地方の国有林内には、登山の盛んな谷川岳、日本百名山の苗場山、平ヶ岳や越後駒ヶ岳、古くから信仰の山として親しまれてきた八海山など、有名な山がたくさんあります。

どれもいい山ですが、まず巻機山(標高1,967m)を紹介します。



写真1 巻機山山頂



写真2 タヤマリンドウ

一般的なコースは南魚沼市南部の清水集落から登るもので、ブナの気持ちの良い美林をしばらく登り、やがて笹地や低木林を抜けて「ニセ巻機」に至ります。そこからみる巻機山は雄大かつたおやかで、爽快な気持ちになります。登山による踏みつけにより登山道周辺が荒廃したところを 50 年以上前から東京の大学生や登山者などが丸太を敷くなどして、植生が回復してきています。

片道 5 時間程度と手頃で、山頂近くに立派な避難小屋もあるので、いろいろな楽しみ方ができます。

守門岳（標高 1,537 m）は、夏も良いですが冬季もすばらしい経験ができます。

ツアーに参加して私が登ったときは幸いなことに好天に恵まれ、膨大な量の積雪と季節風により形成される巨大な雪庇を見ることができました。広々と広がる真っ白な山頂の景観はひときわ美しいものでした。

なお、冬山は急激に天候が変化するなど大変リスクが高い登山です。十分な装備で信頼できるガイドと一緒に登るなど、慎重な行動をお願いします。

このほかにも、越後三山（八海山、中ノ岳、越後駒ヶ岳）や栗ヶ岳、平標山、平ヶ岳など、登ってとても楽しい山が多くあります。多くの方に一度登ってみてほしいと思います。



写真3 守門岳山頂から浅草岳を望む

## 豊かな水や国土を守る取組

中越地方は大量の降雪により豊かな水が供給されています。この豊かな水は、コシヒカリをはじめとする稲作や、地域住民の生活用水、関東地方へ送られる発電など、私たちの生活を支えています。

上流の森林（つまり国有林）は、降った雨や溶けた雪を地中に蓄え、ゆっくりと下流に流す「緑のダム」となって豊かな水を安定的に供給しています。

よく手入れされた人工林やブナなどの天然林は、手入れされていない人工林に比べてこのようなたらしめが高く、水の安定供給に間伐などの手入れは欠かせません。中越森林管理署では人工林の手入れを計画的に行っており、平成 29 年度は、混み合った植栽木を間引いて林内を明るくすることにより森林を健全にする「間伐」を 52 ha、植栽木の成長を阻害する雑木などを処理する「除伐」等を 58 ha 実施しています。



写真4 平成 29 年度施工の谷止工

また、地域の皆さんの安心・安全を守るため、崩れた山を修復する「治山事業」を行っています。

平成 29 年度は、溪流の勾配を緩和し、溪流周辺の山腹斜面を安定化するための治山堰堤 2 基と、がらがらと崩れ続ける傾斜地をモルタルでできた枠を貼り付けて安定化する「のり枠」1 箇所の工事をダムの上流などで行いました。

工事にあたっては、景観に配慮するとともに、木材の利用を拡大していくため、できる限り木材を利用しています。（写真 4）

## 木材の利用と地域林業の振興

中越森林管理署が管理する国有林は人工林率が低いといっても、スギやカラマツの人工林は約6千haあります。その半分以上が50年生以上の森林となっており、木材として利用可能な時期が到来しています。私たちはこれらの資源を活かして地域の振興を図る取組も進めています。



写真6 下刈り省力化の現地検討会

森林を手入れするとともに、利用期に達した森林資源を有効活用するため、間伐や主伐（植付を伴う伐採）を積極的に行っており、平成29年度は立ち木の状態の木を9,500m<sup>3</sup>程度、丸太にしたものを1,800m<sup>3</sup>程度、民間の事業者販売しています。

これらの事業実施に当たっては、今、林業の課題となっている効率化・低コスト化に率先して取り組んでいます。

夏季の過酷な下刈作業（下草を刈払いして苗木の生育を助ける作業）はできる限り削減し、間伐は伐採作業の安全性と効率を上げるため、列状に伐採しています。また、主伐の作業を行う際は、その後に苗を植える際の手間を削減するため、不要な枝の整理や整地（地ごしらえ）をあわせて行うようにしています。こういった取組の成果は、民有林に携わる皆さんと共有するため現地検討会を開催するなどしています（写真6）。

また、中越地方の人工林は、民有林がとても多い（民有林：国有林＝9：1）ため、県や市・町などの皆さんと連携し、地域全体で森林資源を活用して林業を発展させ、地域振興につなげていくことが重要だと考えています。

このため、前述の現地検討会により民有林の取組を後押しするとともに、国有林と接している民有林の皆さんと森林管理署とで「森林整備推進協定」を結んでいます。これは、林道等の作業用道路を共同で利用して伐った木材を運ぶコストを削減したり、同時期に行う作業箇所をなるべく集めて作業用機械の運搬コストなどを削減することで、地域の林業を活発にしようというもので、これまでに「湯沢町森林整備推進協定」と「南魚沼市山口地域森林整備推進協定」の2件の「森林整備推進協定」を結んでいます。

平成29年度からは、湯沢町を「民国連携推進地区」として、連携関係をさらに強化する取組を行っています。施業を行う森林の集まり（団地）の新設や拡大を目指した取組や、湯沢町の森林林業行政への支援などを行っています。

## 生物多様性の保全

国有林の所在する奥地山岳地帯はもとより、中越地方にはブナをはじめとした豊かな森林が広がっており、そこには希少な動植物がたくさん生息・生育しています。なかでもイヌワシ（写真5）は、いわゆる生態系の頂点にあり、地域の生態系の豊かさを示す重要な指標となっています。

全国にいるイヌワシ約200ペアのうち14ペアが中越地方に生息していると言われており、当地方は重要な生息地となっています。

中越森林管理署では、地域の専門家や関係者の皆様のご意見を伺いながら、平成29年に「中越森林管理署におけるイヌワシの保全を考慮した森林施業等の指針」を策定しました。イヌワシの繁殖特性を踏まえて森林施業の時期を選定することなどを定めており、これらの取組を通じてイヌワシの生息環境、そして生物多様性の維持向上を図っていくこととしています。



写真5 イヌワシ♀  
(新潟県イヌワシ保全研究会 池田修氏撮影)

私たちが管理する国有林は、中越地方の全土地の5分の1を占める広大なものです。

利用期に達したスギなどの人工林、貴重な動植物が生息・生育する天然林、そして人々が自然を楽しむスキー場や山岳など、地域にとって貴重な資源が数多くあります。

私たちは、これらを守り、有効活用することにより、地域経済や日本全体の発展に寄与していきたいと考えています。改めて皆様のご理解・ご協力をここにお願いし、この文章を閉じたいと思います。